

母豚の夏場対策がなぜ必要なのでしょう

このテーマは十分承知されていると思いますが、もう一度考えてみたいと思います。温暖化の影響か、最近の夏は最高気温が35℃以上になることがよくあります。

【豚舎温度が高いことによる母豚への影響】

温度が高いことによる母豚への影響の一番大きな要因は、食欲の減退すなわち飼料摂取量の減少です。食べると、その代謝のために熱量が発生します。暑いと、飼料摂取量を抑制して代謝で発生する熱量を減少させ、体温の上昇を防ぎます。このことは、種雄豚、肉豚とも同様に言えることです。豚は発汗による体温の調節が不可能です。

【暑さによる母豚の分娩後の飼料摂取量の低下は、大きな経済的損失】

哺乳豚への影響

母豚の飼料摂取量が減少することにより泌乳量が減少し、体重の増加に悪影響があります。また哺乳豚は、その空腹感から床をなめて下痢を発症することもあります。

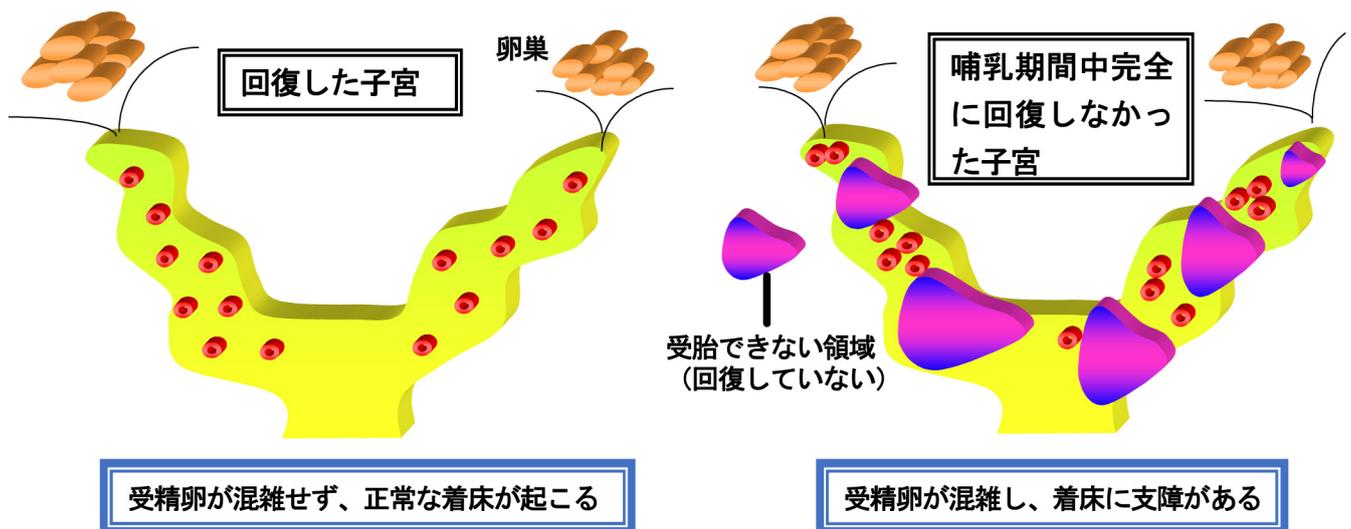
母豚への影響

繁殖成績への影響が最も深刻で、経済的被害が大きくなります。特に分娩後7～14日の食下量が次回の繁殖成績に影響します。

1. 受胎率の低下(排卵、受精卵への影響；暑さによる種雄豚の精子への影響もあり)
2. 発情再帰率の低下、発情微弱
3. 次回の産子数・生時体重の減少
4. 卵巢機能の低下(性周期の異常)

特に、受精卵の死滅、次回の産子数・生時体重の減少は、食欲低下→泌乳不足→子豚の哺乳不足→オキシトシンの分泌減少による子宮回復遅延が原因と考えられます。

子宮の回復状況と胎子の大きさ



次回分娩の産子数、生時体重が正常である

受精卵死滅は少ない

胎子の成長に適した場所がある

次回分娩の産子数が少なく、生時体重が小さいものがある

受精卵死滅が起こる

胎子の成長に十分な場所がない

母豚の夏場対策（特に分娩舎）

母豚の夏場対策の基本は、環境を調整し前述のような分娩後の飼料摂取量の減少を防止することが焦点です。繁殖に関しては、8月の受胎率を改善し、その母豚から生まれた子豚を翌年の6月に出荷することが目標となります。ただ、種雄豚が暑熱にさらされた精子の状態が完全に回復するには、2カ月以上必要であるということも考慮する必要があります。また、本来泌乳最盛期の母豚の最適温度は15℃前後であり、そこから1℃上昇するごとに体重1kg当たり、飼料摂取量は約1g減少すると言われています。

【環境面】

- ドリップクーリング(ペットボトルの応用他)
効果がある方法であるが、子豚を濡らさないようにする必要があります
- 順送ファン、扇風機
子豚に直接風が当たらないようにすることが必要であり、逃げ場も必要
- 屋根を白く塗ったり、屋根に散水することで、温度上昇を抑制する(風通しのいい植樹も)
換気も併用した豚舎内細霧も有効

【飼料給与】

- 母豚を過肥の状態で行き先舎に導入しない(分娩時の母豚の脂肪量と飼料摂取量は反比例)
- 給与回数を増やす(2回→3回→4回)
- 気温が低い時間帯に給与する
早朝が最も適している(分娩舎での自動給餌機も考慮)
- 時間が経過した残餌は可能な限り除去する
母豚の食欲低下を防ぐとともに、腐敗によるカビを防止
- 授乳母豚への油脂添加(母豚、子豚のために添加)
食べ始めてから乳に出るまでに3日は必要、逆効果の場合あり(母豚の食欲減少)

【給水】

- 十分な給水量を確保する(飲水器の配置、流量を調整；2L/分を確保)
飲水しないと飼料を食いこまないし、授乳豚は体重の約10%の飲水量が必要
- できる限り、新鮮で冷たい水を給与

【交配】

- 1日2回の発情確認の徹底
- 交配回数の増加
- 最終交配後翌日の発情確認の実施を徹底

【子宮頸管の触診】

- 本来は、直腸検査を実施して卵巣の状態を確認するのが理想であるが、豚の子宮角は長く卵巣も沈んでいるため、卵巣と連結している広間膜を手前に引いて卵巣を手の中に収めて検査する必要がある
↓
- 直腸検査が困難な場合は、子宮頸管の触診が有効(簡単に実施できる)
直腸検査用の手袋をはめて除糞し、手首くらいまで手を挿入すれば触知できる
黄体期は柔らかく、腸管を触っているような感触である
発情期は固く、魚肉ソーセージ(塩ビのパイプ)を触っているような感触である
↓
- 全頭に応用するのではなく、本来発情が来るべき時期に発情が来ない豚で実施する
発情が来ない場合でも、子宮頸管が固い場合がある(直腸検査では発育した卵胞あり)
1性周期を飛ばす、もしくは廃用にするなら授精した方が得策では・・・

【投薬】

- 年間を通じて有用であるが、特に夏場の繁殖成績を向上させるために
- 発情を誘起するためのPMSG製剤
 - 分娩を誘発するためのプロスタグランジン製剤
 - 陣痛微弱、射乳促進に使用するオキシトシン製剤
 - 分娩後の細菌感染に対する抗菌剤の応用(産褥熱他)

農場により状況が異なりますが、以上考えられる対策を上げてみました。